

特別活動部

部長：関 副部長：河田

(1) 今年度の目標

- ①□ 新校舎における斯文祭の実施計画等の検討
- ② 生徒会の自主的自律的な企画・運営
- ③ HR委員会・研修HRの活性化
- ④ ボランティア活動の活性化

(2) 主な取り組みの計画

- ①□ 斯文祭について
 - ア 新校舎での実施における問題点とその解決方法を考える。
 - イ 新校舎の使用マニュアルの策定
- ② 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
 - ア 大勢の新入生の自由役員獲得を目指す
 - イ 教員・一般生徒との連絡を密にとる
 - ウ 新校舎における新生徒会室の整備とデータ・資料の整理
- ③ 研修HRの活性化に向けて
 - ア 事前指導の充実
 - イ HR委員の運営力育成に向けての担任との連携強化
 - ウ ディベート講習会を通しての実践
- ④ ボランティア活動の活性化に向けて
 - ア 丸養交流会事前研修の充実
 - イ 斯文祭「ふれあいの部屋」での周知活動
 - ウ 地域のボランティア募集に積極的な参加をめざす

(3) 成 果

- ① 斯文祭について
 - ア ・室内掲示用のピクチャーレールを2階教室に設置していただき、文化部の作品展示に役立った。
また、それ以外の教室については、暗幕の設置について、簡易ではあるが設置できた。
・使用しない机、椅子の保管について検討した。講義室を倉庫として対応できた。また、旧校舎ほどではないが、ベランダにも幾分置くことが可能であった。
 - イ 旧校舎使用時と比較して、掲示物における場所と粘着テープの使用についての制限を設けた。また、道具の洗浄場所を新校舎内と校舎外の決められた場所(新校舎内はトイレ奥の流し、校舎外は第1体育館流し)とした。その他については、旧校舎時と同様で対応できた。
-
- ② 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
 - ア 思うように自由役員を確保することができなかったが、新しく加入した1年生にはしっかりと引き継ぎを行い、スムーズな生徒会運営ができるようにした。
 - イ 一般生徒への連絡に関しては、各クラス・各部活動への周知会で連絡事項の徹底をお願いした。生徒会連絡黒板を有効に活用するようにした。また、教員への連絡は担当者を決め、必ず事前に相談するようにさせたが、担当生徒によっては連絡が不十分なところがあった。

ウ 生徒会室への移転を機に印刷機を新しくした。パソコンも新たに2台購入し、効率よく仕事ができるようにした。各行事ごとに資料の整理とデータの保存を徹底させた。

③ 研修HRの活性化に向けて

ア 事前のHR委員会で各クラスがそれぞれ授業案のプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して意見交換をすることで、展開案を再考できた。事前指導を通して、HR委員の意識の向上を図り、充実した活動を行うことができた。昨年よりもプレゼンテーションの質が高く、そうした準備段階での入念な取り組みが本番での優れた実践に繋がっているのだと実感できた。

イ 団会を通して協力を呼びかけ、事前の生徒の展開案の検討、当日の助言などに、生徒の主体性を尊重しながら積極的に関わっていただけた。また研修HRを積極的に参観していただき、担任クラスのHR運営の活性化に役立てていただいた。

ウ 昨年に引き続き、1年生はディベート講習会において、各クラスのHR委員の代表者が模擬ディベートを行い、事前準備においても講師の先生の指導を受け、経験を積むことができた。今年度は事前準備の回数を増やし、さらに研修を積めたことで、各クラスが良く準備された、白熱したディベートを実施することができた。また、2年生のクラスにも昨年学んだディベートを実施したところがあり、1年次の研修の成果が表れており、ディベート活動の継続的取り組みを検討しても良いのではという意見もあった。

④ ボランティア活動の活性化

ア 今年度も人権・同和教育主任と香川丸亀養護学校より異動して来られた先生に講師をお願いして、事前研修会を開いた。両校にとっての交流会の意義を明確にすることができたので、参加者の取り組み方がさらに充実したものになった。

交流会を終えての感想文にも、今回の活動を通して得たことを、今後の自分達の生き方にどのように生かしていくかについてふれたものが多く、各々がボランティア活動を続けていくためのよいきっかけとすることができた。

また、昨年度に引き続き、「丸養まつり」にボランティアとして参加することができた。「丸養まつり」についても事前研修会を行い、各クラスでふれあい委員より周知活動を行う機会を作ったことにより、活動に対する理解をより深めることができ、どの生徒も主体的に活動に取り組んでいた。

イ ふれあい委員会の活動を知ってもらうために、交流会の様子について展示するとともに、放送部制作のDVDを流し、参加していない生徒にもわかりやすい周知を心がけた。また丸養からは高等部の各作業班の作品と作業内容の紹介パネルをお借りして展示し、紹介した。

特別展示としては、同じ高校生が行っているボランティア活動として、琴平高校のとらすとKの活動を紹介した。同じ県内の同世代の生徒の活動であるため、委員会の生徒は関心をもって展示に取り組む事ができた。また、本校卒業生で東日本大震災後の東北の様子を撮り続けていらっしゃる写真家の平井慶介氏の写真もお借りして展示することができた。

ウ 赤い羽根募金、書きそんじハガキ・キャンペーン、心のとも運動（2月実施予定）などの活動において、ふれあい委員がクラスに周知・取りまとめを行った。また、「お城祭り」「まるがめ子育てフェスタ」などに希望者が参加した。その他、学校へ届いた案内を随時周知したが、あまり積極的に参加できたとはいえない。

(4) 課題と次年度に向けての改善策

① ア 各階にピクチャーレールが設置できればいいが、予算的なこともあるので、使用する部と教室を固定して設置していただく方向で考えたい。また、暗幕についても既存のカーテンレー

ルの使用を考えるとともに、クリーニングやサイズの統一を図っていきたい

- イ 教員に対しては、斯文祭についての注意点として、例年通りプリントで提示した。今年度はバザー開設の申請や、弓道部が運動場で行った遠的の事故防止対策についても顧問の先生に考えていただいたので、来年度の実施に向けてこれらをまとめておきたい。また生徒対象のものは生徒会から出されており、大切なことは生徒対象のマニュアルにしっかり明記させたい。
- ② ア 生徒会生徒の負担が大きいように思われるので、役員の仕事のスリム化を図り、活動しやすい環境作りに努める。2年生に対しても、生徒会活動に興味のある生徒には声をかける。
 - イ 役員全員参加の会をもち、意思統一を図る。運動会や斯文祭等、学校行事の運営については入念に引き継ぎを行い、早めに計画を立て、各クラス・各部活動の準備が円滑に進むように生徒会が指導する。計画的に理事会を開催する。また、クラス担任や部活動顧問との連携を徹底させる。
 - ウ 資料の整理とデータの保存を徹底させる。旧生徒会室の取り壊しに伴い、保管してある過去の資料をしっかりと保存させなければならない。また、保管してある備品の保管場所を確保しなければならない。
- ③ ア 方法論については議論できたが、内容面についてはじっくり話し合うことができなかった。高校のHRの内容としてふさわしいものを扱うような方向に持っていきたい。そのためには、各クラスレベルでの十分な話し合いの時間を持つことが必要である。またHR委員会でのプレゼンテーションを通じて、HR委員の司会の力（リーダーシップ）の向上を図っていききたい。
 - イ 引き続き団会、朝礼を通して呼びかけていきたい。また研修HRについては事前の委員会にも参加していただくようお願いしていきたい。
 - ウ 模擬ディベートを実施したことで、HR委員が実際にディベートを体験でき、またHR委員以外の生徒はディベートに対する理解を深められ、各クラスでのディベートを円滑に実施できた。しかし、発言する際の声量や話し方、聞く側のメモを取る技術についてはまだまだ改善する必要がある。
- ④ ア 今後も事前研修会を行って、積極的に取り組ませたい。
 - イ ふれあいの部屋そのものについての周知活動をし、より多くの生徒に関心をもって展示に足を運んでもらえるよう工夫していきたい。
 - ウ ボランティア参加募集の案内は非常にたくさん学校へ届くが、すべて参加するというのは、困難な状況である。行事や部活動との兼ね合いを考慮しながら、参加可能と考えられるものを管理職と協議し精選の上、ふれあい委員を通して広報活動に努める機会を増やしたい。